



何事も挨拶と返事から

この通信は、不定期ですが、
月2回ほど発行します。

まだまだ蒸し暑い日が続きますが、子どもたちは運動会の練習や準備に気持ちよく汗を流しています。さて、前号で職場体験学習のことを書きましたが、各事業所からのアンケートが届き、課題が浮き彫りになってきましたので、改めてお知らせしたいと思います。

各事業所での子どもたちの取組は概ね良かったようです。一方で、多くの指摘があったのは、

☆ 挨拶や返事は相手に届くようにはっきりと

☆ 指示されたときには、きちんと意思表示して（はい。わかりました。ありがとうございます。）という、ごく基本的なことでした。

現時点で、挨拶や返事に関して、本校の指導が完全には浸透していないということが明らかになり、私たちも反省しているところです。事業所の中には、「働く上での緊張感が足りない」「注意したことが守られない」といった厳しい指摘もありました。次年度の受け入れに影響がないか心配です。

職場での厳しい現実を知らないからこそ体験学習をするのですが、特に上記の2点については、コミュニケーションの基礎としてしっかり身に付けさせたいと思います。

このことを受けてというわけではないのですが、7日（水）の児童生徒集会では、児童会・生徒会の役員が寸劇を通して挨拶や返事について呼びかけを行いました。良い例、悪い例を示した上で、「全校で気持ちの良い挨拶、返事をしていこう」という生徒会長の話で締めくくりました。先生役の関口和真さんの演技はなかなかのものでした。

思春期特有の照れくささや、一人一人の性格等、理解できるところもあるのですが、社会では通用しないこともあるということを子どもたちにもしっかり認識させる必要があると考えています。

また、挨拶や返事に関しては、日常的に周りの大人の言動を見ながら吸収していく部分もあります。ぜひ、ご家庭でも話題にさせていただくとともに、自然と子どもに手本を示している大人であり続けましょう。



安心してください。 がんばってますよ！

久しく、団体で表彰を受けることがなかったのも、とてもうれしい報告です。

去る9月3日に行われた牧水杯ソフトテニス大会において、本校から出場した2チームが、どちらも3位入賞を果たしました。翌週に行われた個人戦でも1ペアはベスト8に入るなど、これまでの練習が実を結びつつあるようです。中体連の秋季大会がより楽しみになってきました。

まだ入賞こそしていませんが、男子バスケットボール部も暑い中かなりの練習量をこなしていました。夏休み中は、朝から夕方まで練習という日もあり、倒れないか心配しましたが、子どもたちは元気に頑張っていました。

さらに、男子卓球部には6人ほど小学部の子どもが練習に来ていますが、限られた時間の中で、しっかり基礎をたたき込まれているようです。

学校行事の多い時期ですが、子どもたちは部活動にも精を出しています。

知・徳・体のバランスのとれた子どもとして成長してほしいと思います。

人間にとって成功とは、 自分の夢に向かってどれだけ挑んだか

「芸術は爆発だ！」でおなじみの岡本太郎氏の言葉です。世代的に、あのCMをご存じない保護者がいらっしゃるかもしれません。

夢に向かって挑むには、まず夢をもつ必要があります。毎年行われている「全国学力・学習状況調査」の分析を見てみると、将来の夢や目標がはっきりしている子どもはよい結果を出しているようです。

ただ、「夢を持って」と言われても、どんな生き方があるか、どんな職業があるか、どんな進学先があるかなど、子どもが選択する材料はある程度大人が与えてあげる必要があります。

学校ではそのための様々な行事を組み立てていますが、その素地は家庭で培われます。団らんのひとときに、夢について語って見ましょう。

